

皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所

第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp



CREATE HOPE in the WORLD



世界に希望を生み出そう

第1649回例会 令和6年3月14日(木)

【会長の時間】

山田 利明

皆さん、こんにちは。外へ出ると暖かいです。家の中ではまだまだ寒いです。ここ幾日かは暖かくなるという予報です。

会長の時間という事で、夢を語ろうという事ですが、私には実現不可能ですが、核融合発電に興味があります。どういう仕組みで、電気が起きるか、資源が出来るかと。今、CO2を出さないよう努力しています。ソーラー、風力発電などあります。

無尽蔵に熱を作れる核融合発電がありますが、日本でも研究されています。炉の温度を1億4千万度、太陽が持っている温度にすると、太陽は核融合して、熱を出しているんだという事です。そういう事で、何十年も前から世界中でお金を掛けて研究していますが、プラズマという1億度が地球上で出せません。中性子を出すのですが、原発で核分裂発電をしています、あれほど危ない物はないそうです。

先日のニュースで見ましたが、画期的な研究が進められているそうです。量子水素エネルギー、常温核融合だそうです。12人でやっている会社だそうです。水素は海にもありますが、水素をある金属にあてると、熱が出るそうです。どうあてるかと言うと、水素をあてて、熱を加えるそうです。そうすると燃料が切れるまで数百度の熱がずっと出ると。千度以下なので、コントロールする事出来、放射能も何もでないそうです。これを量子水素エネルギーと呼び、投入した量の1万倍熱が出るという事です。来年辺りには実験炉で1Kワットくらい出来るそうです。

少しの燃料で1万倍になり、900度くらいの熱が続く事は実証済みだそうです。核もCO2も出ない。もし日本で常温核融合発電が確率すると、石油も何もいらなくなります。この研究については日本が一番進んでいるそうです。ただ、使う金属をナノ加工して水素あてると。日本にはこの技術があるそうです。画期的なものではないかという事で、大会社がバックアップしているそうです。三浦工業株式会社が研究しているようですが理屈的には100万Kワットつくり、千度くらいなので、コントロール出来、燃料を抜けば、無くなるという事で、核分裂のように暴走する事がなく、すごいのでは



ないかと。これが出来るとエネルギーは海から取れる水素を使えば、1万倍になると。これが出来ると、世界のエネルギーが変わるという事です。

夢のある話かと思えます。量子水素エネルギーについては、理屈があまりまだ分からないそうです。核融合しているのではないかという事です。実際に熱が出るそうです。

東大の文学部卒の人が、3.11の東日本大震災の時に福島原発事故などがあり、危ないと考え、当時は学習塾の先生だったのですが、自分でエンジニアを集めて研究して、会社を作ったそうです。企画力があって、出来たようです。以前太陽を地上に作る話をしましたが、難しいそうです。こちらの研究の方が有力かもしれないと思っています。

【幹事報告】

高田 富康



1. 地区事務所より
 - ① PETSに向けて3年間の目標フォーマット記入のお願い
 - ② 地区研修協議会の案内
2. 米山記念奨学会よりハイライトよねやま

3月10日に本庄文化会館で、蘇れ2570プロジェクト委員会の事業として、ロータリー希望の風奨学金チャリティー講演会がありました。講師は埼玉県警で20年勤務し、今はテレビで活躍している人ですが、300人くらい集まりました。また、この委員会の最後の事業として、ノスタルジックカーフェスタが開催されます。

夢を語る

山田 利明会長

10年前くらいに自然エネルギーを使っただけの家づくりについて考えた時の資料があります。自然に生きる事が大切で、それでは我々はどんな所に住んでいるかという事です。地球の半径は6,500キロ、空気は、大体標高5,000メートルくらい。半径6,500キロ分の5キロなので、1,300分の1になると。1,300センチ分の1。半径が

13メートルとすると、1センチ、半径13メートルの円の内の1センチに我々は住んでいます。奇跡だと思った方がいいと。地球は宇宙の中でほんのゴミほどの大きさなので、昔は神秘、神と例えた。自然と共に生きる術を身につけようというのが、その時の私の話です。

太陽がもし30センチとすると、30メートルの先に地球は3ミリの大きさになります。そこに皆さんは住んでいて、太陽の恩恵を受けています。太陽は当たり前前に上っているようですが、偶然です。そこに植物もあり、空気もあり、ベールのような空気の中に我々は住んでいますので、自然を大事にして、CO2を出さないようにしないと災害が起きて、海が荒れて、人類が滅ぶような事が起きます。

我々が住むのも自然の法則を利用しようという事で、建築的に自然のものを利用して、エネルギーを使わないようにしようというのが趣旨になっています。

家の向きですが、昔の人は利口で、平面的に見ると南向きに家を建てます。真南ではなく、ちょっとずらします。そうすると、冬の日の出は30度ずれるので、一番家に取り入れやすくなります。日の入りは、120度しか当たりません。ちょっと西向きにひねると、家は暖かくという事になります。夏至は約30度後ろから出て、240度までいくと、暑くて仕方ないので、なるべく壁に当たらないようにすると。冬は日が多く当たるように西向きに家を建てる方がいいと。今は土地の関係でいろいろな向きに家を建てていますが、損だと思えます。そういう住宅を作ると、エネルギーを使うので、CO2を排出する事になります。

なぜ昔の人は家にひさしを出したかと言うと、夏至の角度は81度。ひさしを出しておくで、壁に日が当たりません。暑くなりません。冬は下から30度の所に日が当たるので、高さの2倍奥に入ります。ひさしを90センチ出すと、夏至の時に下の壁に日が当たりません。今の住宅は、30センチとか短いので、壁に日が当たります。そうすると壁が熱くなって、人工的なエネルギーを使う事になります。断熱材等いれませんが、昔の人の方が利口だと思えます。ひさしを出して日よけをしたと。

屋根を麦わらとか茅などにすると、痛みますが、本当にすごい断熱材で、冬暖かく、夏涼しいです。昔の家は真夏に家の中に入っても涼しかったと思えます。今の家は暑いので、サッシを二重三重に、断熱材を入れるという事になりますが、作り方を考えると、コストはあまり掛かりません。もともと自然エネルギーを使うように昔の家は出来ていましたが、今の家は人工的なものを使うように作っているので、結局二酸化炭素を出すという理屈になっています。

敷地の現状を良く知る。快適に過ごすにはということ。隣近所に家があつて、その陰になったりしないような作り方をした方がいいと。周りに家があつたら、2階の屋根の方から光を取ってとか考えると、住みやすくなります。家の五感視覚、聴覚、臭覚、触覚、味覚。これが全部人間に良いように作ると快適な家になる

と。今はビニールの壁で囲っていますが、ビニール袋の中に入るという事を考えると、死んでしまいます。

さっきの核融合とか自然に近い形で出来てくるといいなど。人工的に作ったものは永久的に続きません。石炭とか石油も地球が昔作った物を掘り出して、地球を食っている事になります。水素は燃やすと水になるので、海に帰って水になって、また電気で分ければ、また水素が出来るという循環型になります。これから水素で核融合発電したり、車は水素で動かすという事が主流になってくると思います。そうなれば、地球の気候も安定して、将来も永久的に続き、生活が出来る。

手っ取り早いので、人工的な物を使う方向に向かいます。それを止めてもらって、自然エネルギーを使ったり、自然に親しんだりすれば良いかなど。近所の人と話をした方が人生はおもしろいです。今の住宅は孤立するように作るので、ノイローゼになります。人間は人と付き合いながら暮らしていかないと、おかしくなると思えます。

私が子ども頃は子ども部屋はなく、家族一緒にいました。次の時代は2階に子ども部屋を作って、孤立させたら変な子が出てきたと。今の住宅は真真中に大きなりビングを作って、集まるというようになっていっていますので、元に戻ってきている。そしてプライバシーも保てるという良い所を取っています。

地球は丸く、子丑寅・・・と方位があります。ずっと昔から出来ています。たとえば、丑寅の方角は表鬼門ですが、そこは北風が来る方向なので、ドアは作らない方がいいと。水場を作ると凍るという事があり、昔の人は自然の事を考えて、いろんな事をやっていたと。

今の人は科学的にひねくろうとしても、宇宙からすれば、人間の存在は小さく、ホコリくらいです。あまり考えずに、自然と一緒に生きるという事を考えていった方がいいのではないかと思います。最近はまだ自然に戻って、なるべくエネルギーを使わない、ソーラーで電気を発電するという事で、そうすればCO2が出ないようにしています。

将来に夢がある物語は、自然をいかに使って、自然に戻ろうという事だと思えます。

出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
8	0	4	0	50.0%